

令和5年度 江戸川区立鹿骨小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	自立と貢献	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・「学力保障」を果たす学校 ・自立し貢献する児童 ・組織人として共通実践し、各学年での指導責任を果たす教職員
--------	-------	----------------------------	--

前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果>・学校公開の保護者の感想や年度末評価において、おおむね満足いただいている。全国学力学習状況調査や東京ベーシック・ドリル診断シート、学校独自の標準学力調査においても、着実に学力向上が図れている。</p> <p><課題>・全体的に学力は向上しているが、高学年になるほど学力定着の二極化が見られる。・体力調査では、区の平均を下回る種目が多い。 ・特別支援教育の視点に立った学校運営、学級経営を推進していく必要がある。・統合に向け、地域との連携をさらに深めていく必要がある。</p>
-------------------	--

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	①「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」の作成 ②各ブロックにおける一部教科担任制の実施 ③標準学力調査、東京ベーシック・ドリル診断シートの70%通過率70%以上 ④一人1台端末の利活用の推進 ⑤業者による放課後補習教室「カムバック教室」、全教員による補習「サンライズ教室」の実施 ⑥SP表分析に基づく「電子ドリル」等の効果的な活用	①全国学力調査、都学向上調査「授業の内容はよく分かりますか」の肯定的評価90%以上 ②各学年で教科担任による授業や合同授業を実施 ③標準学力調査国語・算数の通過率80%、理科の通過率70%、東京ベーシック・ドリル診断シート正答率70%通過率70%以上 ④全学年において1単元の学習の中で、必ず3回以上端末を活用 ⑤カムバック教室150回、サンライズ教室35回以上 ⑥「江戸川っ子studyweek!（家庭学習キャンペーン）」3回実施、提出率・取組率90%	A	B	①全国学力調査(6年)肯定的評価80%、都学向上調査(4年)92.1%、(5年)86.3%、(6年)91.7% ②低学年で、道徳の交換授業を実施、中・高学年で社会・理科の教科担任授業を実施、そのほか、全学年で音楽、図工、習熟別算数授業を実施 ③標準学力調査国語の通過率54.2%(全校)、算数の通過率60.7%(全校)、理科の通過率(4・5年)38%、東京ベーシック・ドリル診断シート正答率70%通過率63.1%(2～6年) ④実施中 ⑤カムバック教室36回実施済(1学期末時点)、サンライズ教室13回実施済(1学期末時点) ⑥「江戸川っ子studyweek!（家庭学習キャンペーン）」1回実施、ドリルパーク(電子ドリル)取組率90%	B	・理科、社会の教科担任制や低学年の交換授業は、教師にとっても子供にとってもよい取り組みである。特に、理科は実験の事前準備等に時間が必要であり、しっかりと準備された授業を受けることができると考える。 ・授業改善の余地がある。早急に学力調査や診断シートの結果検証と改善を行い、児童のやる気と自信につながる授業の工夫を生かしてほしい。 ・補習教室については、児童の参加や保護者の理解も含めて十分に定着している。成果と課題をまとめ、さらに充実したものにしてほしい。 ・家庭学習習慣の取組をさらに充実し、確実な定着を図っていく必要がある。	・学力調査の問題別正答率や個人別正答率を細やかに分析、整理し、学習カルタを作成して学力課題を絞った指導を行っている。 ・朝学習の内容を算数に絞り、電子ドリル(ドリルパーク)及び東京ベーシック・ドリル練習シートに継続して取り組む。 ・区で実施している学力向上プロジェクトに参加し、さかのぼり学習、応用学習等を計画的に実施していく。 ・家庭学習のリープレットを再配布するとともに、各学年の宿題内容の精選を行い、漢字・計算・音読・電子ドリルを基本とした統一した指導を行う。 ・児童、保護者、教員対象に年度末アンケートにおいて、教科担任制について取り上げ、成果と課題を明確にする。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	①朝読書・昼読書の時間の設定 ②学校図書館司書と連携した探究的な学習の実施 ③評価の実施 ④学校図書館の環境整備や興味・関心を高める取組の推進	①年間延べ23時間以上 ②各学級1回以上、「江戸川っ子読書科コンクール」に全員参加 ③学校関係者評価年2回、自校及び保護者評価年1回 ④学校図書館司書との連絡会議年2回、館内案内板・分類板の刷新、年3回の読書月間におけるおすすめ図書紹介	B	B	①全学級で、8時間25分実施済(1学期末時点) ②2学期に、全学級で取り組む予定 ③1学期末自校中間評価を実施済、学校関係者評価中間を実施 ④学校図書館司書との連絡会議を1回実施済、読書月間を1回実施済、館内案内板・分類板は現在作成中	B	・読書は、朝や昼に時間を確実に設定、実施していることで、興味関心が高まっていると思う。 ・読書は、心を豊かにし、調べ学習にも生かすことができる。 ・読書科コンクールへの取組を充実したものにしてほしい。 ・近隣に大きな図書館がない地域であり、学校図書館に期待するところが大きい。紙の本に限らず、デジタル図書館などの導入を区に働きかけていくのもよい。 ・読書科コンクールへの取組方法や指導の重点を校内で共有し、より効果的な指導を進める。	・学校図書館司書と連携し、引き続き学校図書館の環境整備を進めていく。 ・統合を見据え、松本小学校の学校図書館担当も連携しながら、計画的な本の購入や廃棄、入替を進めていく。 ・中央図書館からの団体貸出を積極的に実施し、より多くの本に親しめる環境を整える。 ・読書科コンクールへの取組方法や指導の重点を校内で共有し、より効果的な指導を進める。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上>	①毎朝マラソンの実施、マラソン週間の設定 ②鹿骨タイム(休み時間を活用した運動遊び)の実施 ③スポーツ推進委員等の外部講師を招いた運動会開催 ④夏季水泳教室、校内水泳大会の実施 ⑤食育・健康教育の実施	①毎日実施、マラソン週間3回の設定 ②月1回以上、体力調査項目の50%以上で区平均以上 ③各学年1回以上 ④夏季水泳教室12回実施、50mを泳げる高学年児童70% ⑤学校栄養士や養護教諭を連携した授業各学年1回以上、全校児童が毎日の歯みがき・フッ化物流洗口30回以上	A	B	①毎朝マラソン毎日実施、マラソン週間1回実施済 ②鹿骨タイム月1回実施済 ③全学年対象で、スポーツ推進委員を招いた体力テスト対策授業を実施。スポーツ推進委員と共に計画的に実施。体力調査項目(8種目6学年男女別で計96項目)の55%で区平均以上 ④夏季水泳教室5回実施、校内水泳大会実施、50mを泳げる高学年児童14% (9月実施予定) ⑤学校栄養士や養護教諭を連携した授業を1年、2年、3年、6年で実施済。フッ化物流洗口8回実施済	B	・毎朝マラソンによる1日1回の有酸素運動、心拍数を高めることで6年間取り組んだ児童は身体を動かすことを苦にしない丈夫な身体づくりになるものと思う。 ・フッ化物流洗口の導入に効果を期待している。歯みがき指導も引き続きしっかりと行ってほしい。 ・今後、養護教諭、学校栄養士の連携で、食育、健康教育を進めていってほしい。	・体力調査では、55%の項目で区平均以上となったが、結果を分析し、各学年の課題を明確にし、通常の体育の授業や鹿骨タイム等の中で、引き続き体力向上を図っていく。 ・水泳は、気候条件もあり、十分な指導時間を確保することが難しかった。来年度は、目標設定を含め再検討し、児童の実態に即した指導と評価を行ってきたい。
	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインを視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	①高齢の方や障害のある方、外国の方との交流活動 ②副籍交流の推進 ③スマイル教室(エンカレッジルーム)、教育相談室の環境整備 ④不登校児童や配慮が必要な児童への支援の充実	①各学年1回以上 ②直接交流または間接交流を年2回以上 ③環境整備年3回以上、活動や相談がしやすい、落ち着いた明るい空間づくり ④スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、巡回心理士、巡回教員、特別支援教育専門員等との情報共有やミニ研修の場を月1回以上設定	B	B	①5年で鹿本学園教諭による出前授業を実施済。2学期に5年「たごみの家」の連携交流、3学期にイングリッシュキャンプ(外国の方との交流)を実施予定 ②間接交流を毎月実施 ③夏季休業中に環境整備を実施。スマイルルーム(エンカレッジルーム)を移動し、安全で広いスペースを確保。 ④スクールソーシャルワーカーが月1回巡回開始、月1回の情報共有を実施	B	・多様性への理解は百聞は一見に如かずの側面が大きい。各種の交流をさらに進めてほしい。 ・夏季休業中の環境整備を行ったことが、夏休み明けの様々な対応につながったと思う。	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、巡回心理士、巡回教員、特別支援教育専門員等との連携を明確にし、より組織的な対応や環境整備を進めていく。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	①江戸川区子どもの権利条例の理解 ②誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOLOプラン」に基づく確実な対応 ③hyper-QUの実施 ④情報共有や取組状況を確認する機会を確保 ⑤一人1台端末を活用した教育相談、「学校生活アンケート」の実施	①権利条例や命に関する授業を年3回以上 ②生活指導報告会や校務支援システムによる情報共有、週1回以上 ③hyper-QU年1回、結果に基づくケース会議の実施 ④月1回以上の連絡会実施、3・5年生のスクールカウンセラーによる全員面談 ⑤アンケートツールを活用した相談窓口常設、「学校生活アンケート」年3回以上実施	A	B	①権利条例や命に関する授業をすべての学級で1回実施済、道徳授業地区公開講座9月に実施 ②生活指導報告会を週1回実施 ③hyper-QUを実施、全担任が結果分析表を作成 ④月1回以上の連絡会を実施、5年生の全員面談実施済、3年生は未実施 ⑤アンケートツールを活用した「いつでもそだんまどぐち」を開始、「学校生活アンケート」1回実施し、結果に基づいていじめ防止対策委員会を開催	B	・スクールカウンセラーによる面談、タブレット活用した相談等、安心である。 ・いじめ防止対策委員会があり、こまごまと組織があることですぐに対応していただくことができるので、安心である。 ・hyper-QUの分析をしっかりと行い、児童理解につなげてほしい。 ・小規模校の利点を生かし、丁寧な対応を今後も望む。	・アンケートツールの開設だけでなく、月1回の定期アンケートを実施することで、児童の悩みやいじめ、不登校傾向等の早期発見に努めていく。 ・hyper-QUの分析表を校内で共有し、要支援児童へのアプローチや見守りを強化する。また、生活指導士会で各学級や児童の姿を報告し合うことで、児童理解や学級改善に生かしていく。
	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	①授業参観日における評価 ②教育活動の積極的な発信	①年5日以上の学校公開日設定、年5回以上の参観アンケート実施 ②学校ホームページの記事更新週1回以上	A	A	①学校公開を2回(延べ4日間)実施済、参観アンケートを2回実施済 ②学校ホームページ週1回以上更新、延べ15745アクセス達成(4月～8月末)	A	・アンケートの実施、学校ホームページの活発な更新がなされており、保護者への発信は十分に行っている。 ・今後、周年や統合を控えているので、さらに地域との連携や情報発信をしていくとよい。	・各学年の取組や学習・生活の様子がよく伝わると、更新頻度を現化と同程度が増加を目指す。 ・ホームページ内に周年、統合に関するページを作成し、情報発信していく。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	①保護者評価の実施 ②学校関係者評価の実施	①年1回(12月) ②年2回(9月・1月)	B	B	①未実施 ②学校関係者評価中間を実施	B	・児童の姿や経過など、数値だけではなく、成果と課題をしっかりと整理して情報提供してほしい。	最終報告では、数値目標の達成状況だけではなく、成果と課題がより伝わる表現をする。
	<花の寄せ植え活動を始めた。地域への愛着や誇りを高める取組の充実>	①地域の花園やPTAと連携した花の寄せ植え活動やPTA花壇の花植え ②地域の人材や環境資源を生かした教育活動	①花の寄せ植え活動年1回、PTA花壇の花植え年3回 ②各学年1回以上	B	A	①花の寄せ植え活動実施済、PTA花壇の花植え1回実施済 ②地域のスーパーマーケット見学(3年)、新中川土手種植え(3・4年)、学校応援団と連携した小松菜栽培(5年)を実施	A	・花の寄せ植えは、心を育む教育活動であり、今後も継続してほしい。 ・地域の文化や伝統を大事にいく中で、とてもよい取組を進めている。	・PTA花壇の整備について、PTAと連携してよりよい方法を模索していく。 ・今後も、地域の人材や環境を活用した鹿骨小学校らしい取組を進め、地域教材バンクとして整理する。
特色ある教育の展開	<学校における働き方改革プラン>に基づく取組の実施	①会議時間の短縮、校務支援システムの活用 ②各種研修・報告会のモジュール実施 ③定時退勤日や学校閉庁日の設定、連絡アプリ「tetoru」の活用	×	A	A	①校務支援システム活用率100% ②服務事故防止研修42回実施、ICT活用研修43回実施 ③月の時間外勤務時間平均39時間(4月～7月、一人当たり)連絡アプリ「tetoru」の登録率98%、登録者利用率100%	A	・ICT化を着実に推進している。 ・報告会や研修を充実させていくうえで、共通理解は大切である。校務支援システムの活用だけでなく、会議の時間も大切にしたい。 ・連絡アプリ「tetoru」は、いつも迅速に連絡をいただき、大いに活用できている。	・校務支援システムのさらなる活用、校務分掌組織や会議体の見直しなどを行い、働き方改革の取組を推進していく。 ・ICT支援員と連携し、ICT活用研修を確実に実施する。